

事業創造大学院大学 2017 年度第 2 回諮問委員会議事録

1. 日 時 2018 年 2 月 7 日 (水) 14:00 から 16:00 まで

2. 会 場 事業創造大学院大学 5 階会議室

3. 出欠状況

《出席》

(委員長)

岡本 吉晴 元 法政大学 経営大学院 イノベーション・マネジメント研究科教授

(委員)

杉本 孝信 新潟県庁 総務管理部長

高木 政紀 亀田製菓株式会社 管理本部 総務部長

《委任状出席》

奥澤 淳 日本電気株式会社 新潟支店長

金川 貴宣 北越紀州製紙株式会社 洋紙事業本部 新潟工場 事務部長

高井 昭一郎 新潟市役所 地域・魅力創造部長

長谷川 佳高 株式会社テレビ新潟放送網 執行役員 経営企画局長

早川 博 株式会社コメリ 取締役執行役員

吉田 至夫 株式会社新潟クボタ 代表取締役

《欠席》

上田 明 三井住友銀行 執行役員 東日本第一法人営業本部長

4. <議事次第>

1. 開会

2. 前回議事録の確認

3. 報告事項と質疑応答

(1) 専門職大学院設置基準の改正に伴う「教育課程連携協議会」設置への対応について

(2) 将来計画に基づく中期計画(2017 年度～2018 年度)について

(3) 次期将来計画検討を含めた機関別・分野別認証評価の対応について

(4) 教員組織の変更(教員公募の進捗状況)について

(5) EIT の取り組みと EIT 生の起業に向けた取り組み進捗状況について

(6) 2017 年度 COC+事業活動状況について

(7) 海外交流協定校との取り組み状況について

(8) その他、新潟地域活性化研究所などにおける活動状況報告

4. 質疑応答(全般)と議論

5. 今後議論すべき課題の確認

6. 閉会

<配布資料>

資料 0 議事次第

資料 1 委員名簿

- 資料 2 席次表
- 資料 3 2017 年度第 1 回諮問委員会議事録
- 資料 4 専門職大学院設置基準の改正に伴う「教育課程連携協議会」設置への対応について
- 資料 5 将来計画に基づく中期計画(2017 年度～2018 年度)について
- 資料 6 次期将来計画検討を含めた機関別・分野別認証評価の対応について
- 資料 7 教員組織の変更(教員公募の進捗状況)について
- 資料 8 EIT の取り組みと EIT 生の起業に向けた取り組み進捗状況について
- 資料 9 2017 年度 COC+事業活動状況について
- 資料 10 海外交流協定校との取り組み状況について
- 資料 11 新潟地域活性化研究所における活動状況報告

5. 議事経過

1. 開会

研究科長五月女より配布資料の確認、出席委員の確認を行った。

学長仙石より本委員会の開催趣旨説明と本学が取り組んでいる活動や課題への対応に対して、忌憚のないご意見を賜りたい旨の挨拶があった。

2. 2017 年度第 1 回諮問委員会議事録の確認

前回委員会の議事録を確認した。

研究科長五月女：予め確認させていただいたが、もし議事録についてご意見等がある場合は事務局へ連絡願いたい。

3. 報告事項と質疑応答

- (1) 専門職大学院設置基準の改正に伴う「教育課程連携協議会」設置への対応について
研究科長五月女が専門職大学院設置基準の改正に伴う「教育課程連携協議会」設置への対応について報告した。

岡 本：資料にある連携協議会の審議事項はすでに外部へ出されたのか。

五月女：すでに外部へ出されているが、改正の施行まであと 1 年以上あるので、これからも学内で検討していく予定である。

委 員：内容的には申し分ない。審議事項「ア」の授業科目の開発に関して、今後の議論になるのだろうが、現時点で具体的なものがあれば聞かせてほしい。

五月女：スケジュール的な面では、毎年 9 月に科目名の変更や追加等も含めた翌年度の学則変更を文部科学省へ届け出なければならず、それが完了すれば翌年 4 月からの変更が可能となる。今年度も昨年 9 月に科目名の変更と新たな科目の追加を届け出済みである。また、来年度の届け出に向け、学内の「将来計画推進委員会」において、経営系専門職大学院として相応しいカリキュラムにするべく見直しを図っている最中である。諮問委員会からも見直しに関して様々な意見をもらいたいと考えている。

岡 本：現在の諮問委員会メンバーもインクルードして、さらに企業等にも拡げて議論していくものなのだろう。

五月女：その通りである。従来と同様に、半年間の活動内容や今後の計画を伝えるほか、
今後はカリキュラムの内容も含め、さらに突っ込んだ意見をいただくようにしたいと考えている。

委員：評価に関する事項という文言があるが、今までも諮問委員会では授業評価に関して議論されていたのか。

五月女：評価という点では、科目ごとの学生アンケートや教員の相互参観を実施している。相互参観は評価というよりも、講義方法や内容の改善に向けて共有する場と位置付けている。また、これらの情報は、従来、学内での運用としており、諮問委員会には出ていない。

岡本：授業の評価まで諮問委員会のメンバーで対応するとなると、大きな負担が掛かることになるが、この趣旨はそういったことでは無いように思う。認証評価がその評価をするものであるから、外部の意見や希望を聞くまでで良いのではないかと個人的には思う。

委員：県立大学では評価委員会を設置するよう定められている。毎年、様々な意見を聞いて議論し、その結果を県議会へ報告している。私学の場合は分からないが、諮問委員会から移行させるのであれば、何をどうするのかを整理して、委員会メンバーへ説明すべきだろう。

岡本：文部科学省の中教審へ詳細を確認した方が良いだろう。

仙石：今まではカリキュラムの内容が教員間の議論で決まっており、そこで決定したカリキュラムの教育を受けた結果として、どのような人材が育成され、輩出されたかが、外部による評価の対象となっていた。今回の改正の狙いは、従来は内部で決まっていたカリキュラムまでも外部の意見を聞くようにするという論調で、初の試みだ。ただ、カリキュラムを作る所と、そのカリキュラムによって輩出された人材に対する評価を行う所が同じというのは若干疑問を感じるので、そこは議論が必要に思う。

岡本：議論によって出された意見などが、フィードバックされるのが連携協議会の位置付けなのだろうと思う。

委員：県立大学では財務諸表も評価対象となるので、委員会には公認会計士をメンバーとして加えていて、監査的なチェックを行っている。

仙石：現在、7年に1回の頻度で実施される「機関別認証評価」で財務面の評価は行われている。

委員：「産業界等との連携による授業の実施、その実施状況の評価」という文言があるので、それが主目的だろうとは思いますが、文部科学省への確認をしておいた方が良いでしょう。

岡本：大学基準協会による機関別及び分野別の認証評価でのチェック項目に照らし合わせたものにしていく必要がある。

五月女：従来、認証評価の項目として外部の意見を聞くという項目は無かったように思うが、前回の分野別認証評価では本諮問委員会の存在が高く評価された。

岡本：この改正を受けて、大学基準協会による認証評価の項目におそらく載ってくるだろう。どのようなチェックかはこれからだろうが、義務付けられるはずだ。

委員：国はガイドラインなどを出すとっていないのか。

五月女：いずれ出すと思うが、現段階ではまだは出されていない。

(2) 将来計画に基づく中期計画(2017年度～2018年度)について

研究科長五月女が将来計画に基づく中期計画(2017年度～2018年度)について報告した。

委員：資料にある「SD・FD」の意味とは何か。

五月女：SDとはスタッフデベロップメントで、FDとはファカルティデベロップメントの略称である。従来のFDは、教員間で教育方法などについて、どのように改善していくかを議論していたものであり、SDは職員に義務付けられていたものであったが、昨年からは教員にも対象が広げられ、学校運営に携わるスタッフとしての能力向上を目的とした研修なども受けるよう定められた。従来のFD委員会から両方を包含する意味で発展させたものがSD・FD委員会である。

岡本：中教審で決定されたことか。これが内部質保証というものにつながるのか。

五月女：文部科学省から2年ほど前に通達されたもので、機関別認証評価では完全に自己点検評価という言葉で内部質保証へ置き換える方向が提示されていた。

岡本：中長期計画があって、ちゃんとPDCAで回すことをやりなさいということか。

五月女：従来はPDCAのプロセスそのものが目的だったが、質の保証まで繋がっているかという所まで問われるようになった。

仙石：FDというのは教員が自身の能力向上を目的に講演を聞いたり模擬授業を行ったりするものであり、職員も同様の目的で様々な研修を受けている点も踏まえればSDに統一しても良いのだが、従来のFDの機能も重視して残し、SD・FDとなっている。

委員：2018年度は現行の将来計画最終年度であり、次期計画の策定年度でもあるわけだが、資料と説明を聞いた印象としては、しっかり計画が立てられていると感じた。

岡本：国際認証評価検討とあるが、アジアからの留学生が多いことも理由にあるのか。

五月女：その点も意識しつつ、まずは認証獲得に必要な要件や評価項目の情報収集を進めていこうということだ。

岡本：確かに認証を獲得すれば、私の経験では特にアジア地域からの優秀な留学生獲得に有利に働くだらうと思う。

五月女：日本人学生はあまり意識しないようだが、海外からの留学生は意識するポイントだと理解している。

(3) 次期将来計画検討を含めた機関別・分野別認証評価の対応について

研究科長五月女が次期将来計画検討を含めた機関別・分野別認証評価の対応について報告した。

岡本：スケジュール的にもタイトだと感じたが。

五月女：学校の規模もあるため、限られた教職員で協力して対応していくしかない。

仙石：本音を言えば分野別認証評価の際に、併せて機関別も実施してもらえると助かる。

岡本：中教審ではそういった議論がされているはずだ。

(4) 教員組織の変更(教員公募の進捗状況)について

研究科長五月女が教員組織の変更(教員公募の進捗状況)について報告した。

岡 本：適任者が今回いなければ翌年度に持ち越すのか。

五月女：持ち越すこともあり得る。

委 員：この時期の募集に対して、この応募者数は多いのか少ないのか。

五月女：一般的な募集のピーク期より若干遅くなったこともあり、ある程度予想した人数ではある。実は春にも同じ科目で募集したが、適任者がいなかったため、見送った経緯がある。

岡 本：無理をしてまで進めるものではないが、早めに募集したほうが良いように思う。夏頃が一般的なようだが。

仙 石：大学も含めた教育機関では、特に人が重要になってくるため、慎重に対応したいと思う。

(5) EIT の取り組みと EIT 生の起業に向けた取り組み進捗状況について

教授岸田ならびに研究科長五月女が EIT の取り組みと EIT 生の起業に向けた取り組み進捗状況について報告した。

岡 本：EIT は科目として単位を与えているのか。

五月女：それ自体での単位は与えておらず、実質的に「演習Ⅱ」という科目の中で、計画と実際の行動が並行して走っている形になっている。活動自体も計画をベースにしている。

岡 本：老婆心で申し上げれば、こういったビジネスプランには守秘義務が伴うもので、セキュリティとしての守秘義務違反が生じる危険がある。その辺の対策はしているのか。例えば書面を取るとか。

五月女：書面は取っていないが、外部の方が含まれる場合には、固有名詞を外すなどの対応を取っている。また、学生が修了する際には、自分の論文の閲覧可否について確認を取っている。企業派遣で来る学生などは、派遣元の企業情報を使う場合があるので、その詳細は論文に記載せず、学内のプレゼンテーションの資料にのみ、具体的に記載するようにしている。

(6) 2017 年度 COC+事業活動状況について

副学長富山が COC+国際交流事業「第 4 回ハノイ・ビジネスマッチングとベトナム現地調査」について、研究科長五月女が COC+社会人学び直し WG について、それぞれ報告した。

岡 本：ケースとする地域創生企業を集めることは大変ではないか。

五月女：公開を条件に協力してくれる企業を集めるのは、正直苦勞している。

委 員：単年度でのテーマを決めて実施しているのか。11 月末に募集を開始して、翌年 2 月末までに報告書を取りまとめるのは、かなりハードだと感じるが。

五月女：秋学期という期間内で取り組むスケジュールにしている。先方がどういっ

た課題を投げかけてくるかにもよるが。

委員：今回で何年目か。

五月女：ケーススタディを始めて2年目になる。

岡本：単位が付く科目の中で実施しているのか。

五月女：昨年は「経営戦略」と「グローバル・マーケティング」という科目の中で取り組んだが、今年は科目の枠を取り払って、全学で希望者を募集した。単位は付かない。

富山：ハノイ・ビジネスマッチングも単位は付かない。

委員：今回で2年目ということだが、1年目に取り上げたビジネスプランが実際にどうなったのかをフォローしているのか。

五月女：実際に消臭抗菌剤をモンゴルに展開する事業が着々と進展している。

岡本：どんどん増えて、実際のケース教材となると良いだろう。

(7) 海外交流協定校との取り組み状況について

教授岸田、教授唐木、副学長富山が海外交流協定校との取り組み状況について、それぞれ報告した。

(8) その他、新潟地域活性化研究所などにおける活動状況報告

研究科長五月女が新潟地域活性化研究所などにおける活動状況について報告した。

4. 質疑応答(全般)と議論

委員：前回よりも事業的な報告が多く含まれていたことから、企業の方から多く出席してほしかったが、悪天候もあって欠席されたのが残念だ。

委員：初めて出席したが、盛り沢山でボリュームに驚いたのが実感だ。これからも様々な面で協力していければと思う。

岡本：中長期計画を基にしてやっている印象を受けた。MBA教育が日本ではなかなか定着しない中、少子化もあってこれからグローバル化していく必要があるので、良いアイデアを中長期的な計画で進めてもらえればと思う。

5. 今後議論すべき課題の確認

仙石：我々が常々考えていることは、起業・事業創造は資質や天賦の才能で全て決まるようなことを言う人がいるが、それを肯定してしまうと教育機関の役割が否定されることになってしまう。そのようなことは決してなく、MBAを目指す教育がこの才能を伸ばすとの気概を持って当たることが大事なのだろうと思う。ぜひ、これからもいろいろな形でご協力をお願いしたい。

6. 閉会

五月女：これで2017年度第2回諮問委員会を終了する。

以上